

審議会等の会議結果報告

1. 会 議 名	松阪市放課後子どもプラン運営委員会
2. 開 催 日 時	平成26年12月22日(月) 午後3時00分～午後4時30分
3. 開 催 場 所	松阪市教育委員会事務局2階教育委員会室
4. 出席者氏名	別紙のとおり
5. 公開及び非公開	公 開
6. 傍 聴 者 数	0 名
7. 担 当	松阪市教育委員会事務局いきがい学習課 TFL 0598-53-4401 FAX 0598-26-8816 e-mail ikig.div@city.matsusaka.mie.jp

協議事項

1. 放課後子ども教室推進事業について
2. 松阪市の小中学校における土曜授業について
3. 放課後子ども総合プランについて
4. その他

議事録

別紙

平成26年度 松阪市放課後子どもプラン運営委員会議事録

日 時：平成26年12月22日（月）午後3時00分～4時30分

場 所：松阪市教育委員会事務局2階教育委員会室

出席者：新川委員、三和委員、矢野委員、徳倉委員、西田委員、鈴木委員、久保委員
樋口委員、中井委員、西村委員、村林委員、北川委員

事務局：いきがい学習課長、青少年育成担当主幹兼係長、青少年育成係主任、こども
未来課こども係

（議事）

事務局：平成26年度松阪市放課後子どもプラン運営委員会を開催させていただきます。

皆様には、年末を控えた大変お忙しい中、ご出席を頂きまして誠にありがとうございます。

最初に事務局からのご報告でございますが、規約第8条の第2項の規定によりまして、本日、出席者12名につき過半数以上の委員の出席で会議が成立している事をご報告申し上げます。

続きまして、お手元に配布いたしました資料の確認をさせていただきます。事項書、名簿、運営委員会規則、添付資料1から8となります。

それでは、新川委員長、ごあいさつをよろしくお願いいたします。

委員長：新川と申します、議事進行をさせていただきますのでよろしくお願いいたします。

さて、この「放課後こどもプラン」ですが、これは安倍首相が1回目の総理の時にこの「プラン」が突然出てきてトップダウン型の事業の1つとして知られました。現在、2回目の総理として、この「プラン」に対する思いもあるかと、期待もしつつ、うまく進めてもらえればと考えております。

今日の議題の方にもそれに関連した事が出てきますが、委員の皆さまもぜひ、この事業の国の動向を注視して頂きたいなと思います。2つ目の議題の所に「放課後子どもプラン」という事で、今年度そもそものような事業で進んできて、また来年度の見通しがどうなのか、国がどう考えているのか、それにより都道府県・市町村に影響を与えますので、ぜひ皆様にご理解を深めて頂きご意見を頂けたらと考えております。

そして、大きな話題の1つですが小中学校の「土曜授業」という事でこの「プラン」とも大きく影響を及ぼす、またこの国の教育の方向性にも関連して来る大きな論点になってくる事なので、この事についても委員の皆さまにはお知り置き頂き、今日の委員会を進めさせていただきますと思います。

次に「放課後子ども総合プラン」と言った名称が出てきていますのでご理解を深めて頂きご意見も頂ければと思います。その後、「放課後子ども教室実行委員会」代表者として「放課後子ども教室」の運営に携わって頂いています樋口委員、三和委員、久保委員から現状をお話頂いて松阪市の放課後子ども教室がどのように進んでいるのか知って頂ければと思います。

委員の皆さまにはご意見ご感想を伺って、松阪市いきがい学習課にあります事務局としても、今後の「プラン」の運営の方に皆さま方のご意見を活用して頂きたいと思っておりますので、ぜひご活発なご意見を頂きたいと思っております。

事務局：ありがとうございます。続きまして、運営委員会の委員につきまして今回、小学校校長会から選出の田中様が朝見小学校長の西田様に、PTA連合会から選出の西様から矢野様に三重県教職員組合松阪支部様から選出の濱地様から鈴木様に変更になりました事をご報告させていただきます。なお、副委員長を運営規則第5条の規定によりまして選出が必要となります。事務局案としまして、朝見小学校長の西田様にお願いしたいと思います。いかがでしょうか？

委員：承認

事務局：ありがとうございます。それでは、会議に先立ちまして、各委員さん及び事務局関係者の自己紹介をお願いいたします。（各委員会自己紹介）

事務局：それでは、ここからの進行につきまして規約第6条第1項によりまして新川委員長をお願いいたします。

委員長：お手元の「平成26年度松阪市放課後子どもプラン運営委員会」の事項書に基づいて進めて参りたいと思います。事務局より一括して説明をお願いします。まず事項2の「放課後子ども教室推進事業について」、事項3の「松阪市の小中学校における土曜授業について」、事項4の「放課後子ども総合プランについて」の説明をよろしくお願ひします。

事務局：資料説明

委員長：ありがとうございます。今、たくさんの報告を頂きましたので、一括してご意見ご感想を頂けたらと思います。

松阪市の「小中学校における土曜授業」という大きな論点がまず1つありまして、もう1つは今度の放課後子ども教室の方向性を示すものですが、「放課後子ども総合プラン」のご説明もありました。今後新たに放課後子ども教室や放課後児童クラブを新設する場合は、運営委員推進委員会を設置して一体型を中心とするものにこれからはしていく。そして相互連携を重視していくというそのような主旨だったかと理解したのですが、委員の皆さまご意見ご感想よろしくお願ひします。

委員：土曜日の授業については具体的に資料6で書かれているように、学校の先生方も土曜日に働いた分違う日に休みを取ってする形で、先生方も主体的に参加して頂くという事で土曜授業というのは本当に魅力的だと思います。地域の方のサポートが必要であり、ゲストティーチャーとか学びの場も取り入れるという事で、私たち民生委員は地元に着したものですので公民館や自治会、民生委員を通じてご協力できるのであれば声をかけて頂ければと思います。

土曜日が充実するという事は有難い事ですが、ずっと見ていますと普段の放課後の状態、特に低学年の保護者の方、お母さんが仕事に行けないようなところが「放課後児童クラブ」で改善されていくようながあまり見られず、今まで通りと同じような形ではないかと感じています。平日、仕事に負担が出ないような「放課後児童クラブ」のところは今までずっと何年間か変更なしではないかと思っています。松阪市の民生児童委員も他の地区の児童を視察しに行った事があるのですが、他市は児童館が充実しており、時給750円の安全管理委員だけではなく、そこには必ず市の職員が常駐しており子ども達の放課後を見て頂ける市町も見受けられました。松阪市の子ども児童クラブというのは市の職員ではなく、おまかせした方がほとんどボランティアでやってもらっていてかなり負担になって継続が大変だという声も聞いております。そういっ

た充実も含めて総合的に放課後、土曜日、子ども達が健全にまた親が社会進出の妨げにならないようにバランスよく進めて頂きたいと思っております。

委員長：今、土曜日の学校教育の充実の話と他市児童館の充実した取組みと放課後児童クラブについてのお話をいただきましたが、続いてお願いします。

委員：学童保育の現状ですが、来年から大きく変わる点が1点あります。夜7時まで預かる方向で、国が補助金を増やすので出来るだけ7時まで開けるようにして下さいと聞いています。

今、現在小学校に上がる子どもが通っている保育園が7時まで開けているのに学童は5時または5時半に閉める事をしてしまうと大きく壁が出来てしまうので、国は7時まで開けて欲しいと言っており、開ければお金は補助しますよと言われていています。現在、それを受けて7時まで開けようとしているクラブが何箇所かございます。

ただ、お金は頂けますがそれ以上の人材を確保しないといけないなどいろいろ考えなくてはいけない事が、時間を後にずらすだけですが、それに伴う解決しなければならぬ事が沢山あり、皆がすぐに手を上げられない状況です。

民間の学童保育も松阪市で何箇所か出来てきていまして、遅くなる方はそちらを利用してはいたのですが、私たちが7時まで預かるようになってくるとまた子どもが沢山増えるのではないかと懸念される所で、ふたを開けないと来年子ども達は何人入ってくるかまったく予想出来ない現状の中で、非常に学童保育を運営して行く保護者会に委託されているのですが、先生も自分で確保しないといけない状況は、先に言われましたが、何も改善されていないと思います。

一体型はすごく理想的ですが、今現状、漕代さんや飯高さんは逆に学童保育の子どもが少なく運営が大変になっている所なのでこういう所は逆に一体化してもらってうまくまわしていけたら学童保育も子ども達も毎日そちらに行く事が出来ればお互いにとてもいいと思います。でも中々、中心となって動いてもらう方がそう簡単に現れないのが現状ではないかと思えます。

大きな学区の地域のことになりますが、地域と市長さん、教育長さんと三者懇談をしていただき、できるだけ学童保育も地域と関わりをしたいと言っているのですが、大きな学校になればなるほど地域とどのように関わっていけばいいかをわからないという事もあり、逆に私たちも関わりたい気持ちはありながらも関わり方がわからないので、この場でいい案があれば吸収していきたいと考えております。

委員長：毎年この委員会ですてくる課題ですが、まず1点目は人材の確保の難しさ、2点目は子どもの数も未知数である、待機保育の分野でもよく言われている事で潜在的ニーズで潜在化しているので実態をなかなかつかみにくい、かなり予測が難しいので、この課題についても皆さまのご意見をお聞かせ下さい。3点目は地域との関わりです。これも毎回話題に出てきますが、以前は公民館や児童館であったり、いろんな所で社会資源を活用する事が大事であり、民生委員、児童委員とも協力して、といったこの当たりの具体例がありましたらお願いします。

委員：漕代地区自体は、学童保育数はすごく少ないです。8人、10人いるかどうかで地域性だと思うが、私たち地域は比較的小年寄りが多くいろんなことをやって見えて子ども達の面倒を見ていく事が非常に多い。今、やっている事としては、土曜日もしくは日曜日に子どもを外に出すという事をまず1番に考えている。これ以外に全般的な行事をやっているが皆さんが言われるように子どもの出る機会が少ない。地域性がま

ず第一だと思う。今、第四小学校、徳和小学校、山室小学校の保護者さんに聞きますと私たち保護者が仕事等外に出してしまうと子ども達がほったらかしになり、どうしても放課後学童保育にお世話にならないといけないという事が多いそうです。幼稚園でも同様とのことでした。漕代地区の幼稚園は子どもの数も少なく、今、15人ぐらいしかいません。松阪でも少ない幼稚園ですが、幼稚園をなくさないように地元に住んで頂いた保護者の方に地元の保育園に通わせて下さいとお願いし、後は放課後児童クラブや放課後児童教室で面倒をみるのでという宣伝はしています。

現状、若いお父さんやお母さんは忙しいと思う。若い人は一生懸命頑張っておられるが、子どもと遊ぶことも中々難しいようです。だから年に5、6回子どもたち同士グラウンド等でご飯を食べながら壁新聞などを作ってもらって、遊ばせているのが現状です。

とにかく、子どもたちに集まってもらうというのは色々あって本当に難しい。スポーツをやっている子は、スポーツ少年団やスポーツ団体の組織がしっかりしているので助かっていますが集めることは中々難しいと感じている。現在は、子どもを育てる親1人に対して、1人の子どもを育てるのが精一杯で、昔みたいに1人の親で5人6人も育てるのはまず無理であると思う。そのことを考えると私たち地域としてもこれから、子供を引き付ける魅力のある行事をして、手助けとなるように進めていきたいと考えています。

委員長：配布資料の中に写真付きで、行事の様子が載っていますので、併せてご覧下さい。

委員：飯南キッズいきいきクラブは26年度の計画日数は47日、平日は30日、土曜16日、日曜等が1日となっております。私たちの出発は2000年からで、来年の4月で15年目になりますが、本来は土曜日に授業が無くなった事による居場所作りではじまったわけです。以前は土曜日にだけ活動していましたが今は夏休みもやっている所以平日が増えています。この時は学童保育の方も一緒に来て頂いていますのでかなり多くの人数です。

地域の学童保育は先ほどもあったように人数が減っておりますので運営も大変だろうなと感じています。ただ、安倍総理が30万ヶ所増やすと言っているが、経費や講師はどうするのかと思う。お金は出すというけど、そういった対策はまったく出来ていない。私どもキッズクラブは財源も少ないわけですが、その中で工夫してなるべく学童保育に行けない子いわゆる祖母や祖父がいる子の受け皿になって来たのですが、やはりここにきて人数が減ってきているという事で連携していかないといけないと思っています。

今年度ですが、独立行政法人の子ども夢基金の申請をしました。これは、結構金額が頂けます。これも夏休みなんですけど、子どもの読書力が落ちているという事で本を読んで食事をして夜に星を観る、あるいは、昆虫を探すという自然体験で、2時間ほどの規模が限度ですが二つほど申請しています。採択されれば良いなと思っております。読書の機会が少なく、読書力、本を読む力が落ちているので作文が書けないというのは、やっぱり本を読まないのが要因ではないかと思う。単に読みましようでは効果が無いから、このような行事を機会に本を読む事に意欲を持ってくれるのではないかと考えながら、教室の取り組みも含め来年度の計画を練っています。

いづれは、連携や一体化も考えていますが、山の中なので自然が豊富なのでそのような体験もしていきたいです。今年は松子連の呼びかけもあり干潟自然観察にも参加しましたがそういった連携も必要と考えています。

委員：今、樋口さんが言われた通り、飯南高校と松阪市子ども会連合会と一緒にどんぐりの苗を植える計画があります。この2月8日に松阪市子ども会主催のオセロ大会と壁新聞の展示があります。この壁新聞を見てもらうと、いかに子どもたちがどのような動きをしているか分ると思います。漕代からも参加していますので、皆さんも時間がありましたらぜひ観て頂きたいと思います。

委員長：今、樋口委員と三和委員から説明がありました漕代の放課後子ども教室の写真や、各教室の紹介が市のホームページに取り組みの様子や多数載っています。子どもにとって大事な体験学習が出来る学びの場になっています。皆様ご意見いただければと思います。

委員：私は子どもが3人いまして地区ではそういった事で大変お世話になっていました。バイタリティー溢れる活動を見せてもらって、そういった意欲的な方が中心にいないとなかなか難しいと思う。私ごとですが、祖父が子ども達を自分の所によせて勉強を教えたりしていました。自分もその姿を見ていて退職したらやりたいなと小さい頃思っていました。

自分は朝見なんですけど、東部中校区はずいぶん子どもの数が減ってきています。農地政策で農地指定になっているのでなかなか土地開発ができないのですが、朝見に35件の団地できて、その親御さんたちから放課後クラブが出来ないかという問い合わせがありました。前の学校では、学校はあえて関わらないようにしていたのが現状でした。場所の問題や、セキュリティの問題があったわけですが、それが今は親御さんがどうすれば良いかわからないということで、昨年度PTAを巻き込みましてやってみました。募集した最初は、たくさん希望者があったのですが、結果的には参加者は2人のみでした。それはなぜかという後に分ったのですが、立ち上げ時はずいぶん苦勞する事が分ってきて、それじゃ2、3年たったら加入しようかといった親御さんが多数でした。そして、中心となる人を探すというのは新しい方は無理であると言う事、そこで思ったのは、松阪市はまちづくり協議会が充実しているのでそこへ働きかけて探してもらうという事で、ある意味そこが主体となってやって貰えればと思い、お願いして随分と動いてもらいました。今年、地元へもう一度協議したのですが、状況は変わりませんでしたので、松阪市の指導もあって西黒部、機殿と3地区に広げました。そうすると中心になって貰える方が2、3人見えませんでしたので、なんとか人数が揃い、来年度は3地区合同で学童保育が出来る見込みです。これは松阪市としても初めての試みではないかと思います。小さい所はそれなりに考えてやっていく事が必要であるという事、地域のいろんな組織の中に学校が入っていくことで案外上手くまとまるのではとも思いました。本来の学校としての大事なことは沢山あるわけなので、管理職が携わるものかなと自分で感じております。

また、これから安全の問題や事故の保険の問題などいろいろクリアしていかないといけないことが沢山ありますし、祖父の時代とは全く違ってきています。

また、特に朝見は幼稚園の入学人数が少なく、以前にあり方委員会があつて15人に満たない幼稚園は全部切るという事がありました。その第一号として朝見が切られま

した。しかし子育て支援の観点からどうなのかという声が出ており、市が検討していただき、来年度3園が無くなるとの事でしたが存続になりました。

わたしのところでは、朝見の幼稚園の園舎が空きましたのでそこを使って学童保育を考えています。環境省の事業を6年続けていますが、国も地域の授業をやりたいと思っているようです。また、滋賀県立大学、名古屋大学、三重大学のたくさんの先生や生徒さんが来られ農村経営という事で知り合いになり、いろんな事業に関していくといろんな方と知り合いになりますので、お互いに利用していけば随分骨太な物が出来ていくのではないかと考えています。

委員長：放課後子ども総合プランの全体像のところ、今後責任体制の明確化が載っていますが、責任の重要性など大変という事と、昔と今の違いもそこにあると思います。余裕教室の徹底活用という事で、幼稚園の空き教室を利用した学童保育の取組み、連携では、まちづくり協議会、PTA、学校、保護者室の連携のお話を聞かせていただきましたが引き続きご意見下さい。

委員：日頃、放課後に粥見小学校の運動場で学童の子ども達がサッカー等、楽しく過ごしているのを見てみると安心だなと感じます。来年度から土曜授業が関わってきて午前中子どもたちが授業を受け、その後どのように過ごすかについては、学童や放課後クラブ等と連携をとる必要があると考えています。

年に10回の土曜授業ですが学校で午前中どのような内容をするかを今、それぞれの学校で検討している段階です。3月末までに計画をまとめ、地域での土曜授業をどのようにするか決められますが、その部分の連携も必要かなと考えております。

委員：私は、松阪子どもNPOセンターにありますが、以前に県外から転勤で松阪に来ましたが、第四小校区で子どもが通っていた時に、地域の事がわからなかったので学校に関して行く手段はないかと思っていました。県外の学校の時ですが、そこではPTAが出来る事をボランティアですするという取組みがあり、読み聞かせの経験があったので、第四小学校の先生に聞いてみると、ちょうどそのような取組みを推進するという時期と重なっていた事もあり、保護者を10名程集めて読み聞かせの会をスタートしたのが始まりとなり、今も発展しながら続いています。

今言われていましたが、地域の人が学校にどんどん入っていく事はすごく良い事だと思いますし、子ども達もいろんな大人と接する事はすごく大切な事だと思います。

地域には、まだまだ活力のある年配の方や地域の人はいると思います。そういった方と子どもが接するという事は、子どもにとっても親以外の人と接し、その中で育てられるというのは凄く大切な経験となるのではと思います。街中の子どもたちにも、自然の中で育てられる機会があるのでしたら、行かせてあげたいと思いました。夏休みの間だけでも飯南や飯高にいったら一緒に活動が出来ればすてきな事だと話を聞いて思いました。

委員：今、放課後子ども教室や学童保育、また、さまざまな子どもに関する現場の皆さんのお話を聞かせて頂き本当に大変な事と思いました。平成17年の国勢調査、平成22年の国勢調査を比較しますと、ご存知のとおり人口減少化社会となっていて、ましてや少子高齢化が進んでいますので、子どもの数は減っている現状がございまして、それにも地域差があり、三雲は都市開発によって子どもの数が増えています。しかし、地域によっては子どもの数が減ってきている状況です。

平成 28 年 4 月 1 日には飯高西中学校と東中学校が統合を予定されています。今、統合準備をしていますが、やはり地域の中から学校が無くなるというのは地域の活性化に非常に大きな影響があり大きな課題になっています。

また、幼稚園の場合は義務教育でないにしても幼児教育の意味では必要でありそれなりの体制も必要と考えています。飯高では子どもの数を増やすのは難しいところですが、小さな学校の得意な事を生かして小規模特認校に出来ないかと検討もしています。当然、学校は住んでいる住所で学校区が決まりますが、優れた自然環境もあるので賛同して頂ければ学校区以外でも来て頂ければという取組みも考えています。

飯高の中学校ではクラブ活動も出来ない状況でもあり、子どもが育つ環境としていいのかというご意見もありました。それと平成 24 年度から松阪市 4 3 の全地域で住民協議会ができ、それぞれの地域で活動して頂いています。そういった活動は、子どもの成長に大きな影響があり、人口減少化という地域の中で共存していく事は、大きなポイントであると感じています。この放課後子どもプランとしても、平成 27 年度、新しいプランの進め方を注視していかなければならないですが、やはり人材というものが一番大事でないかと思しますので、我々も何らかの形で取組みが出来ないかと考えています。

委員：福祉部の立場から申しますと、平成 27 年 28 年と考えておりますのは、先ほども言われておりましたが、三雲・嬉野地域の人口が微増ですが増えていて潜在的な保育人数増が考えられますので、そこへの保育園の定員を 220 名の増という事で考えております。それについては、27、28 年度で保育園を建設しまして、28、29 年度から入園出来るようにと考えています。

また、学童保育についてですが、先日も市長さんに要望に来て頂いていますが、これにつきましても嬉野の豊地や、今クラブがない西黒部や朝見につきましてもは、統合した状態で考えておりますが、将来的には放課後子ども教室とも連携して頂いて進めていければと考えています。また、住民協議会との協力も必要であると思しますのでまたよろしくお願い致します。

日本全国的に人口減の問題がありますが、松阪市としても子どもの数も徐々に減ってきていますので、27 年度からは子ども子育ての新制度が始まります。子どもが減ってきている地域については認定子ども園という考え方も出てくると思えますし、地域から子どもがいなくなるというのは活性化という点でも非常に寂しくなりますし、そのような施設を無くすというのは色々と弊害も出てくると思しますので、新制度も利用して進めていきたいと思えます。それから人口減について福祉部だけではなかなか対応も出来ませんので雇用とかとも関連してきますので他の部局とも連携していきたいと思っております。

委員：今日、初めて参加させて頂いて、初めてお聞きする事や初めて目にする資料ばかりで驚いています。自身の事なのですが、皆様のお話を聞かせて頂いて自分が子どもを育てるに当って気を付けている事ですが、核家族なので、子どもが大人と接する機会が自分の家族の親だけだというのはどうかと日頃から感じていました。お話にありましたが、色々な地域の方々との関わりを通じ、子どもを豊かに育てていきたいと改めて思いました。

委員：私どもは、月に 2 回場所をお借りしまして親子木工教室を開催させて頂いています。松阪市全域を対象に参加者を募集して開催しています。今の放課後子ども教室や放課

後児童クラブは地域に限定されるので、地域の学校と地域のサポーターといった感じで、地域で子ども達を守っていかないといけないしサポートしていく。また、親御さんのニーズも含めて地域の大人がみんなで地域の宝である子ども達を育てていこうという取り組みで、とても重要で大切なことと思います。

そういった事からも、私どもは地域限定ではないですが木工教室を通じ、親子で一つの作品を作りあげることで、親子の絆を育てる手助けとなるよう行なっています。

委員：山間部での深刻な問題は、子どもがいなくなるという事でそこが最大のネックです。

これからいろんな対策を国がしてくれるか分からないですが、飯南町全体でも子どもが減ってきているので、いかに生まれた子どもを地域で大切に育てていくかという事が私どもの務めではないかと思っています。

委員長：本当にたくさんのご意見を頂きましてありがとうございます。実際に中心となってバイタリティ溢れる活動をされている三和さん、樋口さんの活動に役立てられるような意見や情報提供ができる委員会でありたいと思います。事務局の方でも貴重なご意見を集約して頂き、今後に生かして頂きたいと思います。

今日の話の中でも校長先生が言われたように、人材が大事だという事で、三和さんの活動を日頃から見られて思われたとのことですが、校長先生が拠点となって小学校でいろんな活動をされていると思いますので大変だとは思いますが。

私の知るところでは特別支援教育が始まった時にも盛んにそのような事がありました。それまでは障害児教育は障害児の担任が中核を担っていましたが、学校のマネジメントをする校長先生がリーダーシップを発揮する事が必要になると言われて、特別支援教育の制度改革があったと聞いております。その意味では学校全体で特別なニーズのある子どもを育て、また、両方のお子さんに対しても指導していくということで、最後に矢野さんのご意見にもありましたように地域で育てる必要があるのではないかという事で、まちづくり協議会であったり、PTA、学校、保護者また公民館であったり、民生委員であったり児童館やNPOなどいろんなところを活用してやっていくことが放課後子どもプランの充実に必要な事で、放課後児童クラブでも今後特に難題ですが、一体化と連携についてこの委員会でも皆さまからご意見頂きまして議論してきましたが、その難題に取り組む上でも特に今後はより一層重要になってくると改めて思いました。

また、20年ぐらい前に言われていた事ですが開かれた学校教育というのをよく言っていて、学校教育は地域に開いて学校の門を開けて地域の方々と一緒に子育てしていく事が子どもを育てる上で大事だ、という事を学生時代に習った事を覚えています。しかしその後、治安の悪化やいろんな事件の影響が日本全体に広がり、開かれていたはずの門がどんどん閉められていき、監視カメラが全保育所、小学校にも付くような状況に随分変わってきてしまいましたが、改めて、今日皆様のご意見を伺っていると、やはり学校を開いて地域や色んな部局と連携し、少子化対策においても共同してやっていく事が重要だという意見も頂きましたので、方向性はそういった方にまた向かっていると改めて認識しました。

今後の松阪市独自の取組という事では、今日お話し頂いた事が課題になると思います。ただ方向性も国の方針等も大きく市区町村の取組みにおいて影響を受けますので今日頂いたご意見で多くを学ぶ事が出来ました。

また、学校の先生方のご負担がどんどん増えていく気がしますが、本来学校を拠点として、いつも資料を見ていて思う事は、全小学校区とか文科省から出る資料も厚労省から出る資料も、とにかく学校の校区を拠点に地域で子どもを育て、子どもの成長、発達を育むような支援をしていこうとなっています。

今後、地域の人数が減るほど校区の地域を基盤としたコミュニティーをベースにした形になっていくのではないかと思います。そうなればなるほど学校の先生方のバイタリティー溢れる活動が非常に鍵になってくるのではないかと思います。いつもこのような話をしていると30人学級にして小人数できめ細かい教育と共に地域の活動も両方しないといけないといけない時代が来ているのではないかと改めて感じています。

それでは、時間となりましたので終了させて頂きたいと思いますが、ご出席の委員の皆様、地域や現場の活発なご意見ありがとうございました。

事務局：年末のお忙しい中ご出席頂き貴重なご意見、誠にありがとうございました。今後の放課後子どもプランに役立てたいと思いますのでよろしくお願いします。

それでは、平成26年度松阪市放課後子どもプラン運営委員会を終了させていただきます。ありがとうございました。